

日本の食品会社で初！世界的なプラスチック廃棄物問題解決に取り組む 国際的非営利団体「Alliance to End Plastic Waste」に参加

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、環境中の廃棄プラスチック問題を解決するための国際的非営利団体である「Alliance to End Plastic Waste」（以下、AEPW）に、2021年3月より参加します。日本において食品会社では初めての参加となります。

●「Alliance to End Plastic Waste」について

AEPW は、廃棄プラスチック問題の解決に取り組むため、世界中の政府機関、環境・経済開発 NGO および市民社会と提携する国際的な非営利団体です。AEPW は、プログラムやパートナーシップを通じて、4つの戦略的分野（インフラの構築・整備、イノベーション、教育と啓発活動、清掃活動）の解決に重点的に取り組んでいます。2021年1月時点で、AEPW には、プラスチックのバリューチェーンに携わるグローバル企業や組織等から50社以上のメンバー企業やサポーターが参加しています。



キリングroupは、「食から医にわたる領域」で価値を創造し、世界のCSV^{※1}先進企業になることを目指しています。CSVの「環境」取り組みの一環として、2020年2月に社会と企業のレジリエンス強化へ向けた新たなビジョン「キリングroup環境ビジョン2050」を策定し、「容器包装を持続可能に循環している社会」を目指すことを宣言しています。また「キリングroup プラスチックポリシー」では、2027年までに「日本国内におけるPET樹脂使用量の50%をリサイクル樹脂にする」ことを掲げています。

これまで、キリンビバレッジ社の飲料商品への再生ペット樹脂を100%使用した「R100ペットボトル」の採用や、ペットボトル軽量化など、ペットボトルを中心にプラスチックに関する社会課題解決にさまざまな企業活動を通じて取り組んできました。さらに、2020年12月には三菱ケミカル株式会社（社長 和賀昌之）とケミカルリサイクル^{※2}によるペットの再資源化に向けた技術検討と実用化を目指す共同プロジェクトを開始しています。

※1 Creating Shared Value の略。お客様や社会と共有できる価値の創造

※2 廃ペットボトルを選別、粉碎、洗浄して汚れや異物を取り除いた上で、解重合（化学分解処理）を行い、ペットの中間原料まで分解、精製したものを再びペットに重合（合成）する方法

今回、AEPW に参画し、グローバルな視点で世界を取り巻くプラスチック廃棄物問題解決に取り組むことで、参加企業とともに、「プラスチックが循環し続ける社会」の実現を目指していきます。

今後もキリングroupは、豊かな地球の恵みを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンに関わる全ての人々と共につないでいくために、さまざまな社会課題に対する取り組みを積極的に進めていきます。